

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間の健康と社会・心理的適応		NSF22_001	必修	2	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID	オフィシアワー		
今村 亨		教員控室	kango	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	健康やストレスには心理的・社会的側面が不可分に関わっていることを理解し、自分自身、また将来的に患者・利用者の健康増進に寄与できるようになることが本授業の目的である。人間の健康と社会・心理的適応について、教科書、資料、授業中の課題を通して理解を深める。					
学習上の助言	授業は、講義内容を聴くという形態だけではなく、Microsoft Teams の「課題」の機能を用いた参加型の授業とする。					
教科書	健康・医療心理学入門 著:島井哲志 他/編:島井哲志、長田久雄、小玉正博/有斐閣アルマ					
参考書	ストレス・マネジメント入門[第2版] 著:中野敬子 金剛出版 ポジティブ心理学の挑戦 著:マーティン・セリグマン/監訳:宇野カオリ ディスカヴァー・トゥエンティワン					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	ストレスが発生する機序とその意味について説明することができる			NS(1)		
②	自他共に尊重したコミュニケーションの形式を理解し、日常で実践できる			NS(2)		
③	他者のストレスを適切に把握することができる			NS(3)		
④	他者のストレスや心理的不健康に対し、対処法を提示することができる			NS(4)		
⑤	多職種連携の意義と方法を説明できる			NS(5)		
⑥	健康と社会・心理的適応についての学習・研究を自分なりに進めることができる			NS(5)		
授業計画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)			
1	健康とウェルビーイング	同時双方向型授業	教科書 第1章を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	3		
2	健康リスクへのアプローチ	同時双方向型授業	教科書 第2章を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4		
3	健康心理学と臨床心理学	同時双方向型授業	教科書 第3章を精読する。気になった用語を調べる	4		
4	ストレスとウェルビーイング	同時双方向型授業	教科書 第4章を精読する。ストレス・マネジメントを実践する。	5		
5	食生活とウェルビーイング	同時双方向型授業	教科書 第5章を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4		
6	身体活動・睡眠とウェルビーイング	同時双方向型授業	教科書 第6章を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4		
7	感情と健康リスク	同時双方向型授業	教科書 第7章を精読する。自己を分析する。	5		
8	行動と健康リスク	同時双方向型授業	教科書 第8章を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4		
9	発達・加齢に伴う健康リスクと支援	同時双方向型授業	教科書 第9章を精読する。気になった用語を調べる	4		
10	働く人の健康リスクと支援	同時双方向型授業	教科書 第10章を精読する。気になった用語を調べる	4		
11	医療における行動と心理	同時双方向型授業	教科書 第11章を精読する。気になった用語を調べる	3		
12	健康・医療心理学の臨床的展開	同時双方向型授業	教科書 第12章を精読する。気になった用語を調べる	4		
13	医療におけるコミュニケーションと課題	同時双方向型授業	教科書 第13章を精読する。気になった用語を調べる	4		
14	災害による健康リスクと支援	同時双方向型授業	教科書 第14章を精読する。気になった用語を調べる	4		
15	医療制度と心理職の社会的役割、全15回の振り返り	同時双方向型授業	教科書 第15章を精読する。気になった用語を調べる	4		
試	試験はレポートによって充当する 達成度評価・評価のポイントを参照					

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

総合評価割合(%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		45	10	0	0	45	100
総合力指標	知識・技術力	9	0	0	0	5	14
	思考・推論・創造する力	9	2	0	0	9	20
	協調性・リーダーシップ	0	3	0	0	4	7
	発表・表現伝達する力	9	3	0	0	4	16
	コミュニケーション力	3	0	0	0	5	8
	取組みの姿勢・意欲	6	1	0	0	9	16
問題を発見・解決する力		9	1	0	0	9	19
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	授業毎の最後に約10分間の「小テスト」を実施する。各回3%を配点する(3×15回=45%)。1回の配点は3%と小さなものだが、その累積は成績に大いに反映する。毎回の授業を集中して聴き、ただ聞くだけではなく、「授業の主人公は自分自身」という自覚のもと、授業内容を創造的に考えることを推奨する。				後日正答及び解答例を公表する。
	②	✓					
	③						
	④	✓					
	⑤						
	⑥	✓					
レポート	①	✓	学期末に、学期末レポートを実施する。10%を配点する。以下の4点で評価する。 ①建設的な考えに到達することができたか ②各人なりに努力することができた ③理知的な記述がなされているか ④設問に対して協動的に対応できているか				希望者に添削・返却
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		昨今の社会状況を踏まえた授業形態を考慮し、今年度は授業毎に実施する「課題」に評価の比重を置く。内訳は各回3%(3×15回=45%)。「課題」は一人で取り組むものを主とするが、授業の状況次第ではグループワークも検討する。				Teamsの機能等を用い、行動目標に即したフィードバックを行なう
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥	✓					
備考							
<p>教員の実務経験: 臨床心理士として13年の臨床経験、山梨県スクールカウンセラー等として13年勤務</p> <p>Teamsを使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限のWiFi環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の仕協など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。</p>							